

新潟大学 外国語学習支援スペース FL-SALC 平成 27 年度第 2 学期活動報告

<英語>

平成 27 年度第 2 学期の英語学習支援活動への参加者数、ならびに「英語チャット」参加者（主に日本人学生）および英語チューター（世界各地からの留学生）を対象とするアンケート調査の結果を報告する。設置から 3 年目となる本年度は、英語を話せるようになりたいという学生の声に応じてスピーキング力の向上を目指す Study Group を増設する一方で、FL-SALC に配架されている英語多読教材の授業での利用を促進した。さらに、本学から英語母語話者教員による発音センターを開設した。

今後の主な課題としては、チャットに限らず、外国語が苦手な学生が気後れせずに参加できるような工夫がさらに必要であることが挙げられる。また、現在は通常の掲示板はもとより、電子掲示板、新潟大学全学英語ポータルサイト、ツイッター、学務情報システムによる一斉通知、1 年生全員へのニュースレターの配付等を通して広報を行っている。それにもかかわらず、FL-SALC の活動を知らない学生が少なくないことから、今後はより効果的な広報が求められる。

I. 活動参加者数

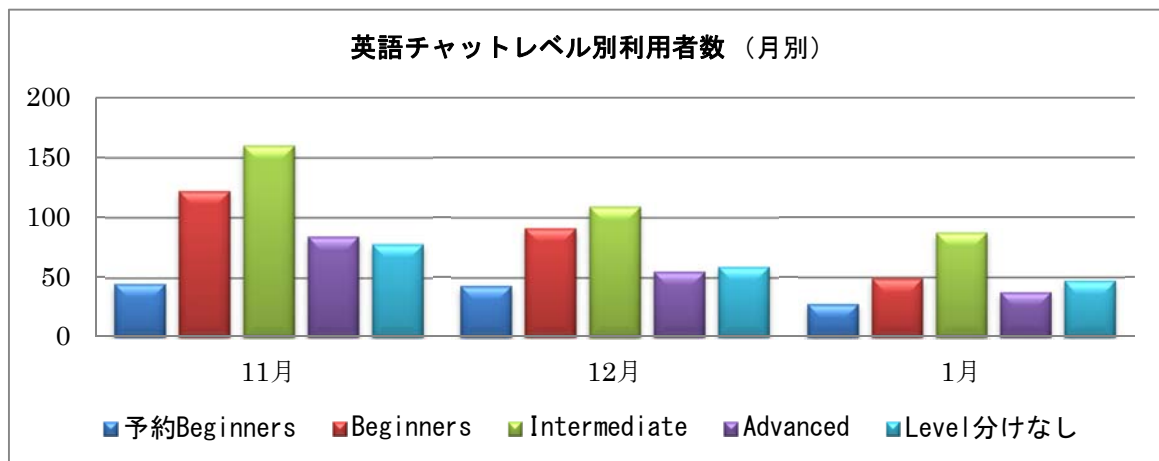
総数（延べ人数）：1,833

※授業期間中の活動：英語チャット 1095、英語学習カウンセリング 57、Study Groups 333、
アカデミック・ライティング・センター 33
発音センター 131

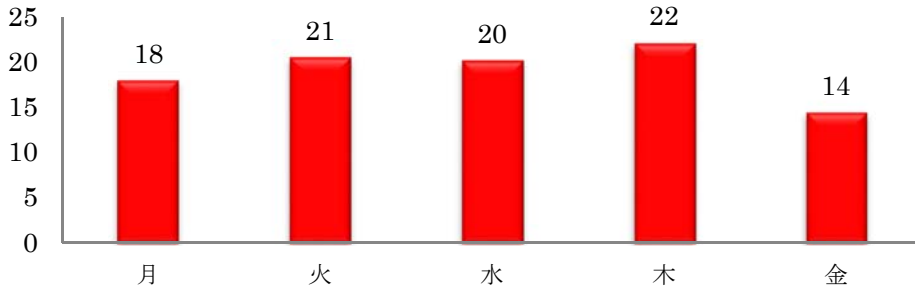
※授業期間後の活動：春休み英語チャット 101
春休み Study Groups 69
英語学習カウンセリング 14

I. 授業期間中の活動（10月8日（木）～2月2日（火）学期末試験開始前日）

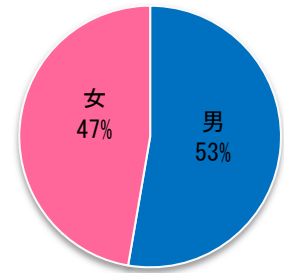
●英語チャット（2階 FL-SALC 内およびその近辺にて実施）



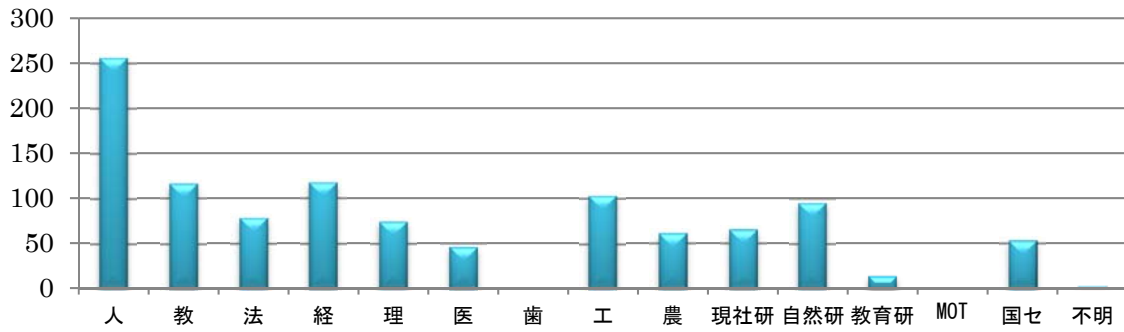
英語チャット1日平均利用者数（曜日別）



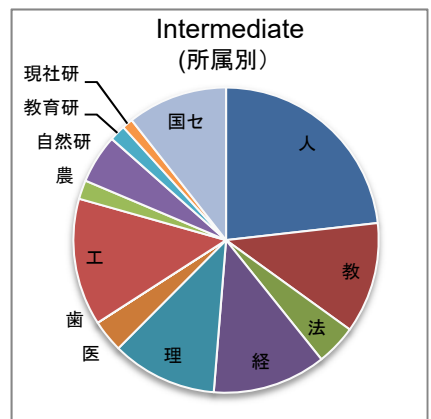
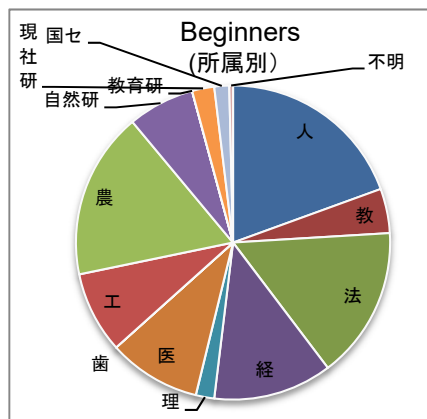
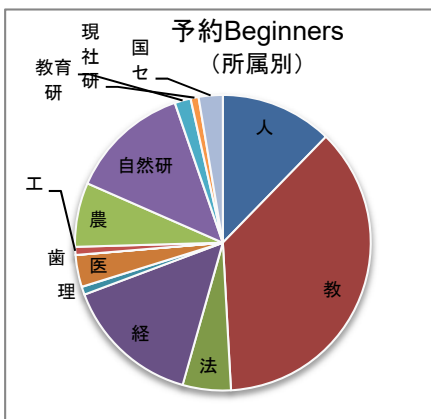
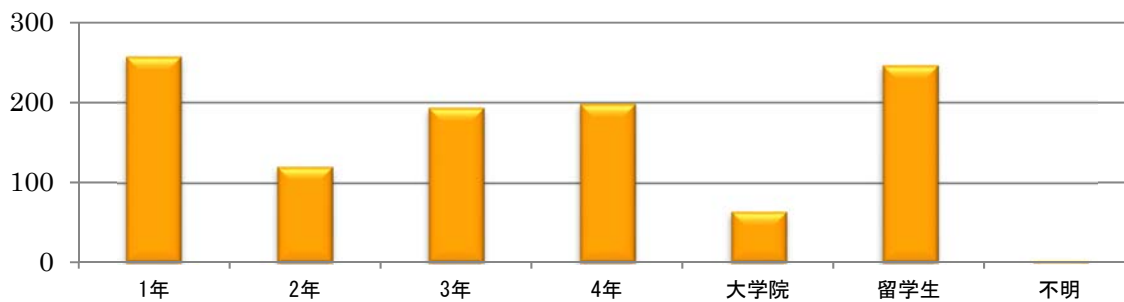
英語チャット（男女別）

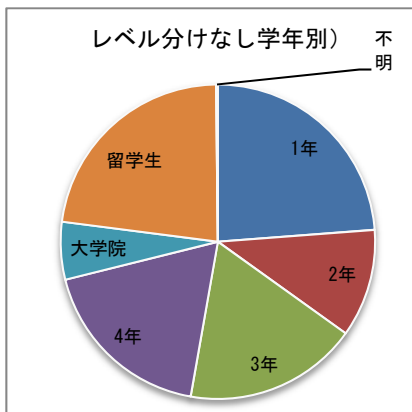
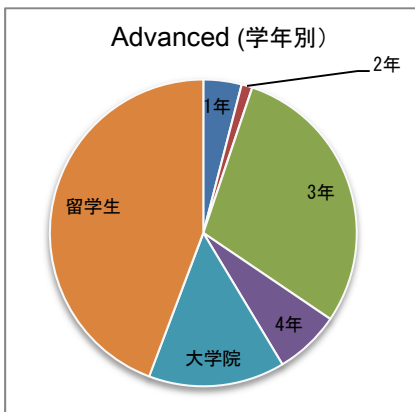
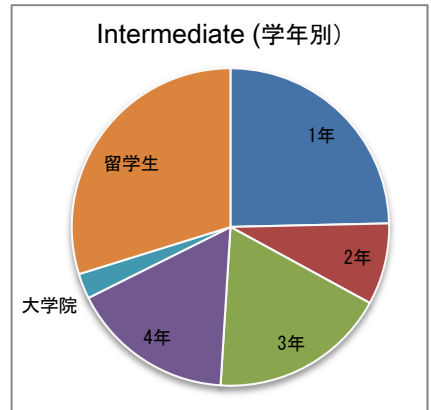
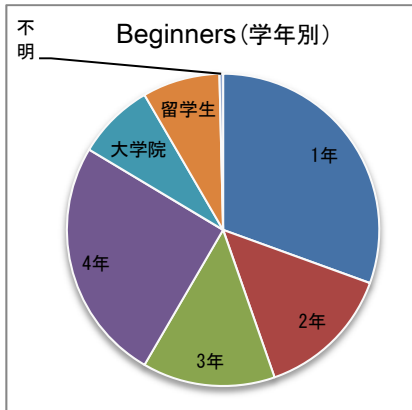
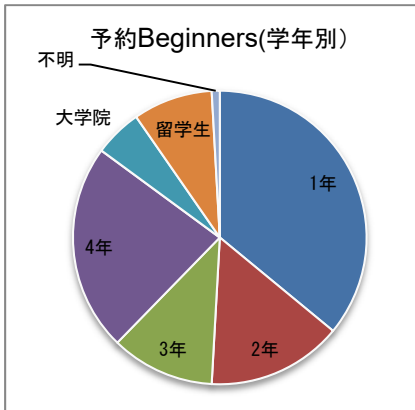
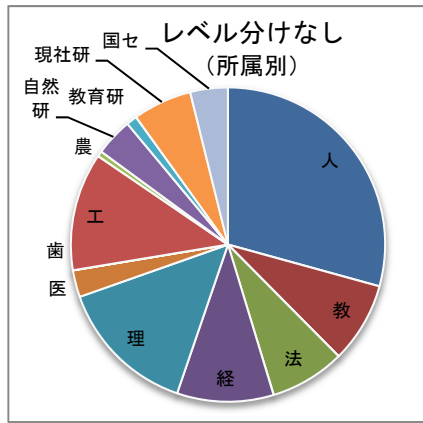
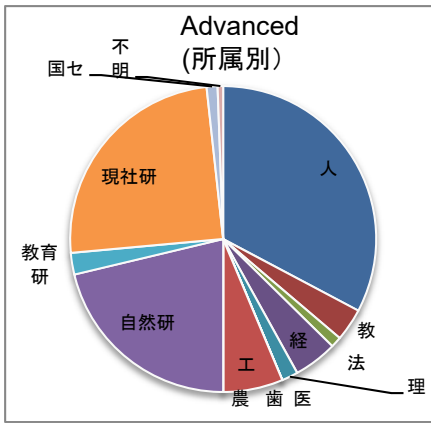


英語チャット全体（所属別）



英語チャット全体（学年別）



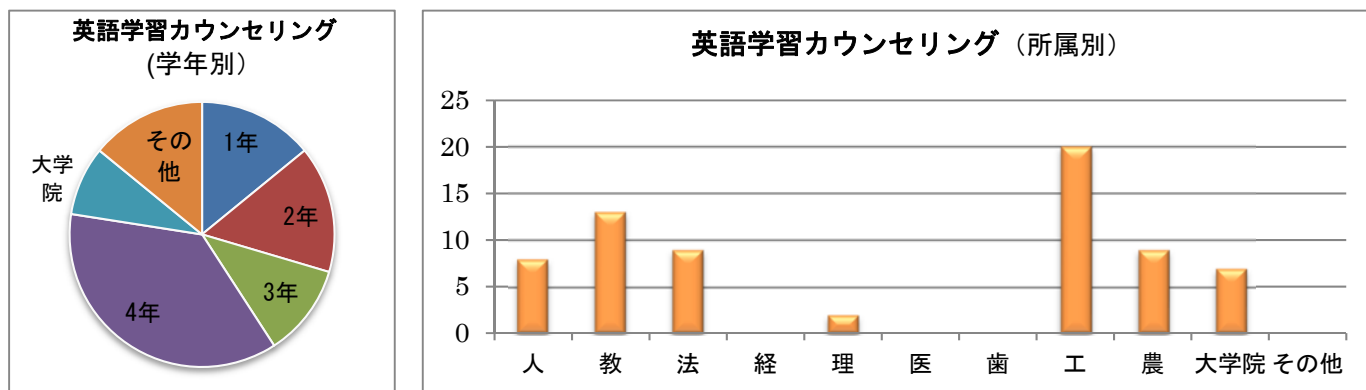
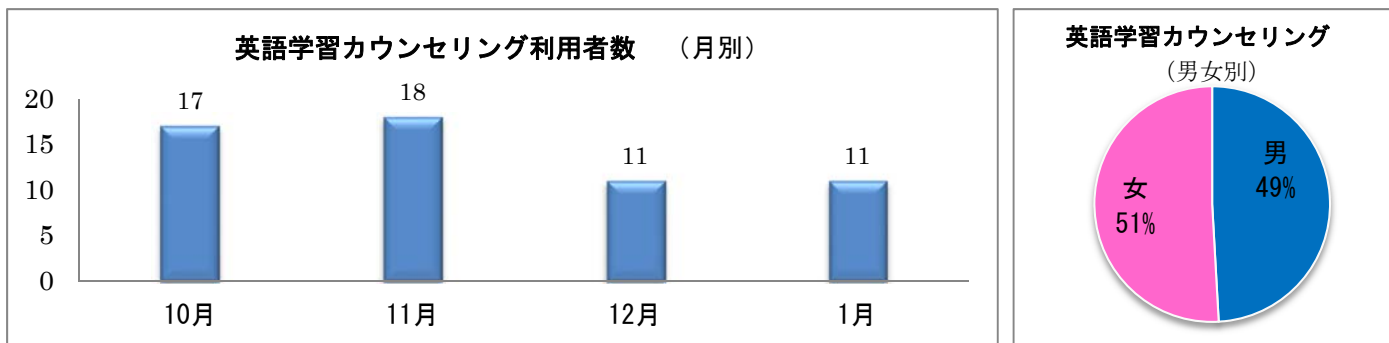


- 英語チャットは、英語による異文化コミュニケーションの実践の場として位置づけ、教員やアドバイザーは介入せずにすべて学生同士の自主性に任せている。
- 昼休みのチャットは緩やかな3レベル（Beginners（英語チューターと1対1の予約制 Beginners を含む）、Intermediate, Advanced）に分けて、参加者自身に選択させた。ただし、5限に開催されたチャットはレベル分けしなかった。
- 異文化間コミュニケーションの基礎を理解し、他人にも配慮しつつ積極的に参加できるよう、本学期も利用者向けのマナー&表現集を配付した。
- 様々な文化的背景や価値観を持つ留学生を英語チューターとして15名雇用した。内訳は、オーストラリア2名、ドイツ4名、ミャンマー1名、トルコ1名、イギリス2名、中国1名、マレーシア2名、カナダ2名であった。英語チューター業務のガイドラインを更新し、コミュニケーション能力育成の一貫として参加者からの話題提供を促すよう指示した。

➤ 今後の課題：

- ・ 第2学期の英語チャットの利用者数が減少しているが、ひとテーブルあたりの適正な人数（英語チューターを入れて5名程度）に落ち着いてきたのかもしれない。次年度の利用状況を注視したい。
- ・ 前年度から英語チューターの留学生と一対一で会話ができる予約制の英語チャットを初級レベルの学生に提供しているが、それでもなお敷居が高いと感じる学生がいるようである。チャットに限らず、外国語が苦手な学生が気後れせずに参加できるような工夫がさらに必要である。

●英語学習カウンセリング（FL-SALC 内および総合教育研究棟 B360 にて実施）



➤ 英語学習カウンセリングでは、利用者が英語の「学び方を学ぶ」ことによって、自律した学習者となることを主な目標としている。引き続き、個別の学習相談シートを作成し、学習目標の設定、教材の選定、学習計画の策定、ふりかえり等のサポートを行った。

➤ 第2学期の主な相談内容

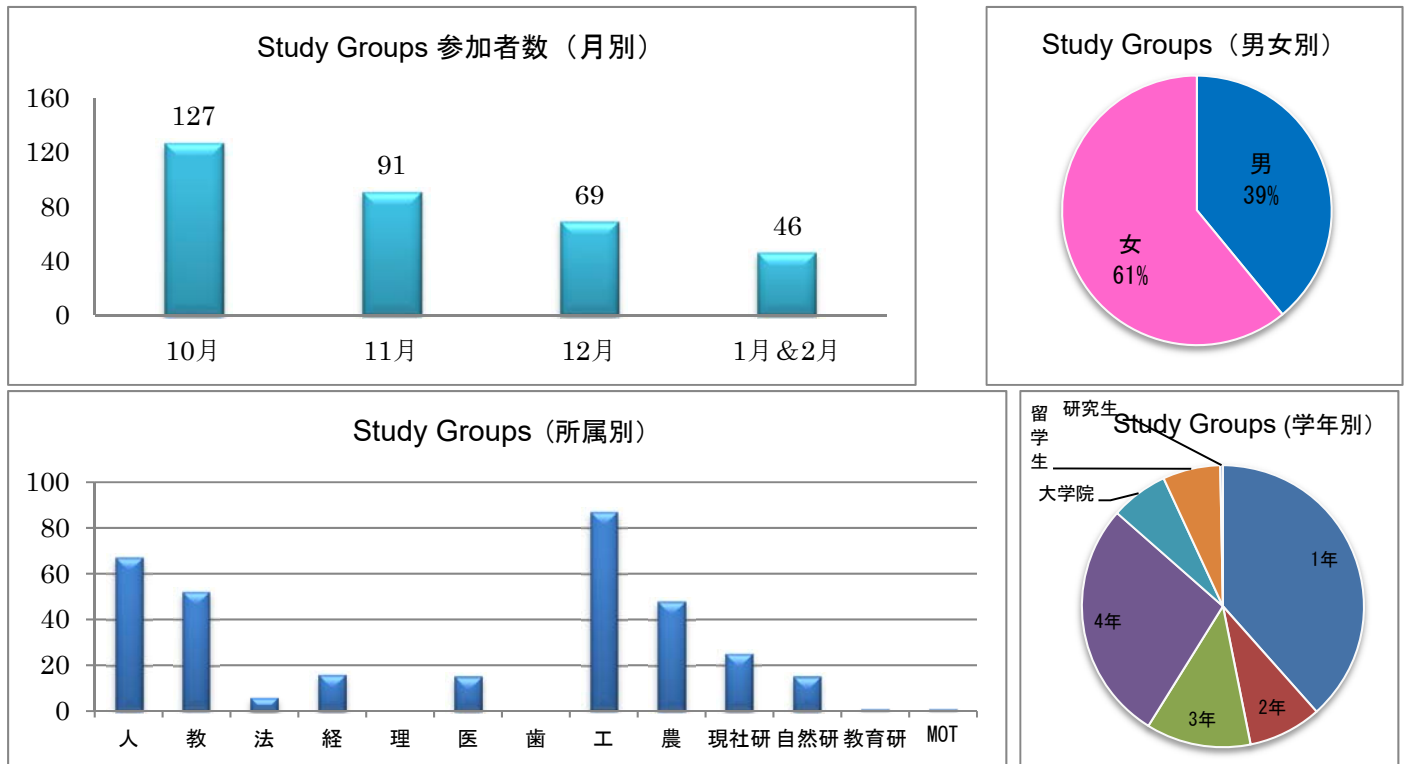
項目	10月	11月	12月	1月	平均
1. TOEIC 対策	44%	48%	36%	14%	36%
2. TOEFL/IELTS 対策	12%	0%	5%	9%	6%
3. その他英語資格に関する質問（英検など）	0%	0%	0%	0%	0%
4. 留学関連：留学先、留学のための学習相談等	8%	3%	23%	0%	8%
5. スピーキングスキルに関する相談	0%	13%	5%	36%	13%
6. リスニング/リーディングスキルに関する相談	4%	26%	14%	14%	14%
7. ライティングスキルに関する相談	0%	0%	0%	0%	0%
8. 目標設定、学習計画、モチベーション維持に関する相談	8%	0%	5%	27%	10%

9. その他	24%	10%	14%	0%	12%
--------	-----	-----	-----	----	-----

➤ 今後の課題：

- ・ 引き続き、英語の苦手な学生の利用をいかに促進するかが課題である。

●登録制および自由参加型 Study Groups (3階グループ学習室にて実施)



➤ 前年度に引き続き、成績上位者・下位者を主なターゲットとして Study Groups を提供し、基本的に事前登録制として学生の継続的な参加を奨励した。他方、飛び入りでも参加できる自由参加型の Study Groups も実施した。

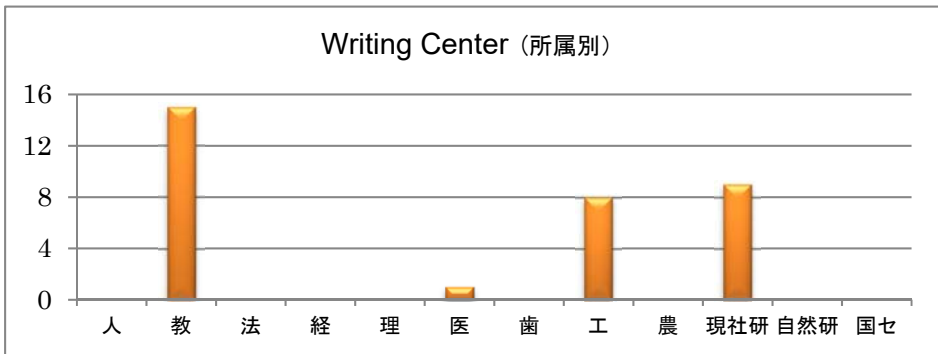
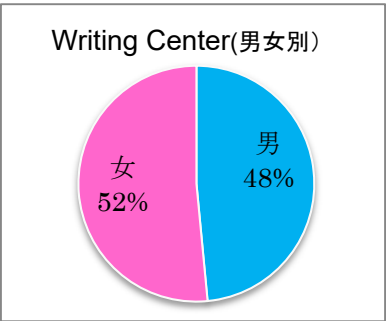
➤ 第2学期 Study Groups

- ・ 月曜 14:40-15:40 「TOEIC ボキャブラリーマラソン」(担当：教育・学生支援機構特任助教 奥村圭子、登録制)
- ・ 火曜 12:00-12:30 「新・会話で使える便利な表現」(担当：教育・学生支援機構准教授 ハドリー浩美、自由参加型)
- ・ 火曜 13:00-14:00 「会話のための瞬間英作文」(担当：教育支援機構特任助教 奥村圭子、登録制)
- ・ 水曜 12:00-12:45 「ゆっくり、じっくり英会話」(担当：教育・学生支援機構特任助教 日下元及、登録制)
- ・ 木曜 12:00-12:45 「英文法をもう一度」(担当：人文社会・教育科学系准教授 平野幸彦、登録制)
- ・ 金曜 12:00-12:45 「英語の文を組み立てる仕組み」(担当：人文社会・教育科学系准教授 秋孝道、登録制)
- ・ 金曜 12:55-13:40 「本格的英文法講座」(担当：人文社会・教育科学系准教授 秋孝道、登録制)

➤ 今後の課題：

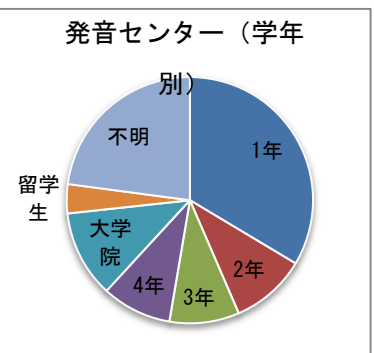
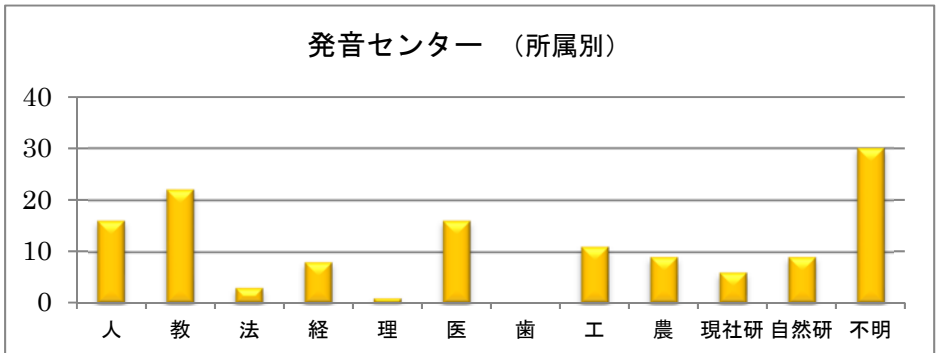
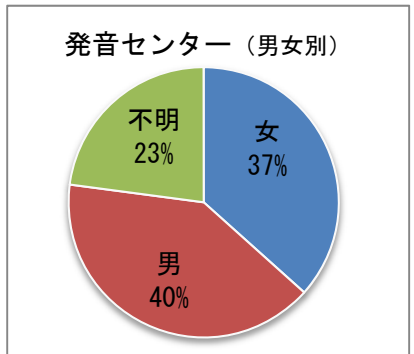
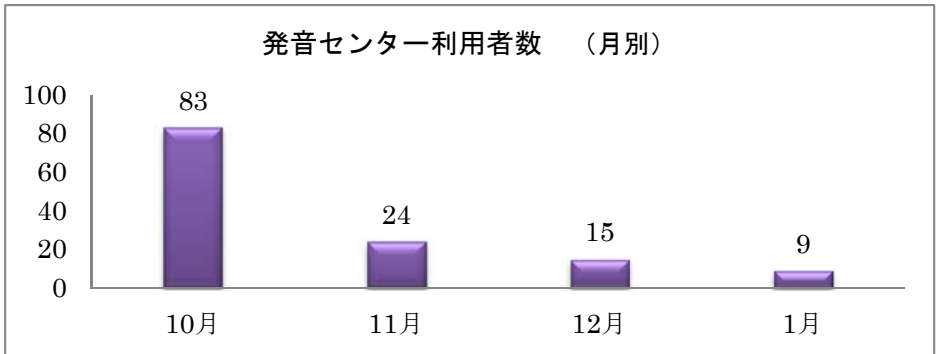
第2学期には参加者数は増加したものの、やはり学期末に近づくほど参加者が減少する。(これまで視察を行った他大学でも、同様の問題を抱えていた。) 学生のモチベーションをいかに維持するかが課題である。

●アカデミック・ライティング・センター (3階グループ学習室にて実施)



毎週月曜 12:15-13:15 にライティング指導を実施した。(担当: 教育・学生支援機構准教授 ジョージ・オニール)

●発音センター (2階プレゼン・エリアにて実施)



毎週木曜 12:00-12:45 に発音指導を実施した。(担当: 教育・学生支援機構准教授 ジョージ・オニール)

2. 授業期間後の活動

●春休み英語チャット (2016年2月16日～3月10日 ※土日及び2月25・26日はお休み)

英語チューター：4名

2月参加者合計 53名、3月参加者合計 48名

●英語学習アドバイザーによる春休み留学準備 Study Groups (登録制)

2月コース (定員12名)：2月16日～18日 2限、参加者合計 27名

3月コース (定員12名)：3月1日～10日 (平日) 2限、参加者合計 42名

●英語学習カウンセリング

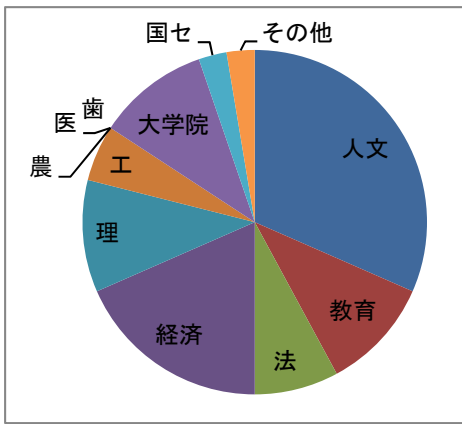
2月利用者数 8名

3月利用者数 6名

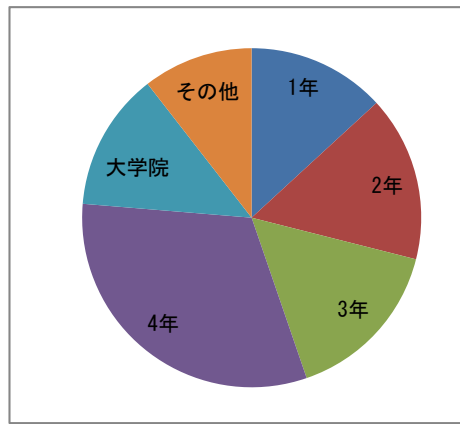
II. 英語チャット参加者へのアンケート調査結果

(2016年1月実施、自由記述部分は原文のまま)

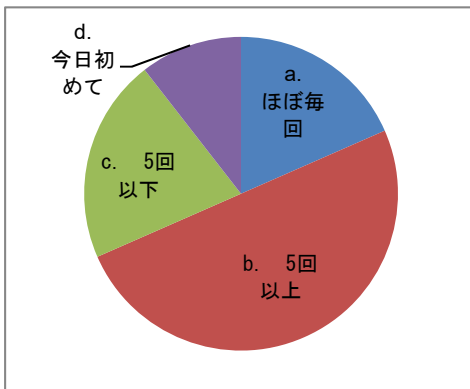
1. 所属



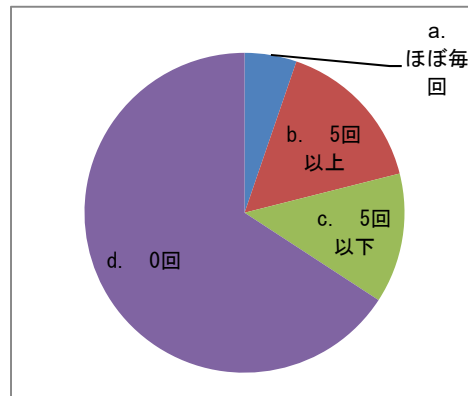
2. 学年



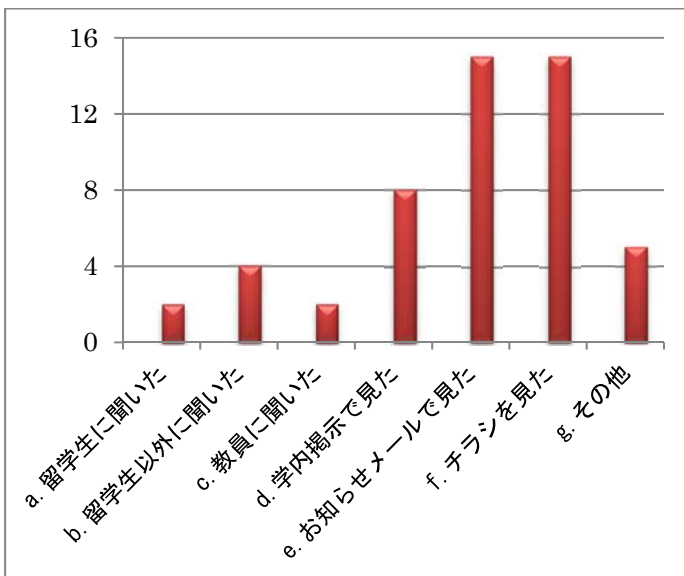
3. 今学期の英語チャット参加回数



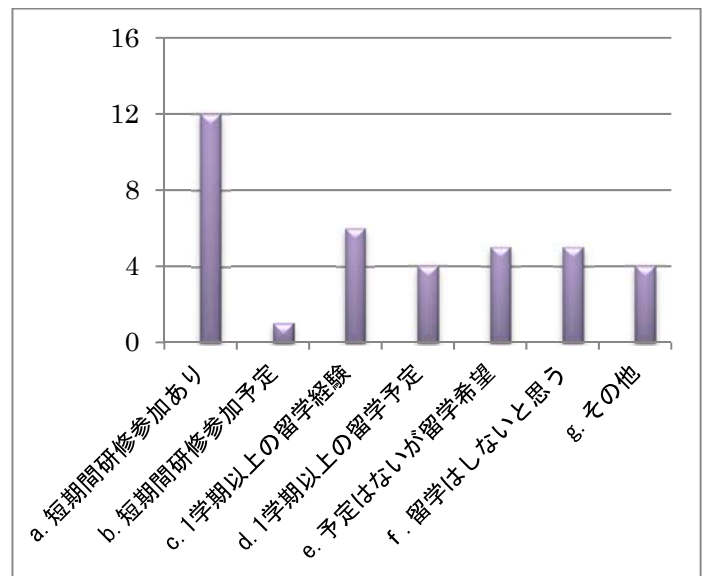
4. 今学期の初修外国語チャット参加回数



5. 英語チャットを何で知りましたか？※複数回答



6. 留学したことはありますか？※複数回答



7. 英語チャットに参加した動機は何ですか？

<英語力強化>

- ・ 英語でのコミュニケーション能力を強化したい (2件)
- ・ 英語力を伸ばしたい (3件)
- ・ 英語をもっと上手に話したい (2件)
- ・ Speaking 力向上 (5件)
- ・ 英語の練習 (2件)
- ・ 就職予定先から英語を使うよう言われた
- ・ 英語がわからなすぎるため

<英語を話す機会>

- ・ 英語をしゃべりたい (7件)
- ・ 英語を話す機会がほしかった (3件)
- ・ 英語を使う機会がほしかった (2件)
- ・ 英語をできるだけ使いたかったので、忘れないために
- ・ 英語を話す機会が少ないので

<留学生との交流>

- ・ 外国人の友達をつくるため (3件)
- ・ 留学生と友達になりかった (3件)

<留学準備>

- ・ 留学の前に英語を少しでも聞き話せるようにしたかったから

<その他>

- ・ 図書館でチャットが開催されているから
- ・ フランス語を主に使いたかったが、英語の Speaking 力を落としてはいけないと思ったから
- ・ スピーキング楽しそうだったから
- ・ 日々に飽きていたから刺激を求めて
- ・ コミュニケーション
- ・ 友達がいて、声をかけられたから
- ・ want to chat in English

8. 英語チャットは、英語学習の点から具体的にどのように役立ちましたか？

<英語力強化>

- ・ 研究調査で外国へ行った時ディスカッション等を英語でしなければならなかったのですが英語チャットに通い練習していたのでスムーズに会話できました
- ・ I can speak more
- ・ スピーキングが上手くなる
- ・ スピーキングの強化
- ・ 話す能力を上げること
- ・ 話す力の向上
- ・ Speaking 練習
- ・ アウトプットの練習

- ・ 発音が良くなる
- ・ **Speaking と Listening** の練習
- ・ リスニング、スピーキングの力が鍛えられる
- ・ リスニングとスピーキングの学習に役立ちました
- ・ リスニング力が多少つく、あるいは維持できる
- ・ 様々な国の人々が話すアクセントの聞き取り
- ・ 実用英語を覚えられる
- ・ 英語の運用能力が身に付く
- ・ 日常会話
- ・ 英会話のフレーズがわかる
- ・ よりフォーマルな会話ができる
- ・ リズムよく会話するのは難しいのでその練習になった
- ・ 毎回少しずつですが、語彙や表現を増やせていると思います
- ・ 語彙力の向上
- ・ 自分の弱点を見つけるにも役立ちました (ex.ボキャブラリー)
- ・ 文法の使い方が分かった

<英語を話すことへの慣れ>

- ・ 英語をしゃべる時緊張しなくなった
- ・ 英語を実際に話す機会を多くもつことが出来、英語を話すことへの抵抗が減った
- ・ 英語を話すことに躊躇がなくなる
- ・ 英語を話す度胸ですかね

<英語を話す機会>

- ・ 定期的に英語を話した
- ・ 実際に使うこと
- ・ そんなに頻繁にいけてないので、行き始めた頃と比べて話せるようになったかと言われると怪しいですが、なかなか得にくい「英語を話す」場所として本当にいいものだと思います

<留学生や他の学生等との交流>

- ・ 沢山のひとと知り合いになった
- ・ チャット以外で外国人と話すとき
- ・ 友達ができた

<異文化理解・社会問題>

- ・ 宗教的に禁止されていること、他の国の事情を知ることができた
- ・ いろいろな社会問題を知ることができた

<自律学習>

- ・ 英語をもっと勉強しよう！という学習意欲をかきたてるのに役立った

<その他>

- ・ 英語は母国語だから分からない (留学生)
- ・ 英語が以前より好きになった
- ・ まだ、効果を感じていない

9. 英語チャットは異文化理解の点から具体的に役立ちましたか？

- ・ お互い分かち合ういろんな考え方を持っている人と出会える
- ・ 簡単に多様な価値観について話すことができる
- ・ 私は他の外国語も勉強していますが、明らかに違うのは情報を得られる国の幅だと思います。英語は世界中の人が習得しているので、勉強を介して英語圏以外の国の言語や文化を知ることができるのが魅力的だと思います
- ・ 友達をつくる時、つくりやすくなった
- ・ それぞれの国の考え方や生活の違いを知ることができ、会話の糸口になった
- ・ 1つの事柄を別の視点で眺めた意見がきけた。他国の事情が知れた
- ・ 幅広い視野を持てるようになった
- ・ 留学生の考えていることがわかる
- ・ 留学生の国について多くのことを知ることができた (2件)
- ・ 他の国のイベントや良いところを知ることが出来る。関心が高まる
- ・ 留学生から見た日本や留学生の国について知ることができ世界が広がった
- ・ より多くの視点から物事を見ることができるようになったと思う
- ・ 外国の生活や学校など様々なことが聞けたので自分の視野を広げることに役立った
- ・ 外国の文化や伝統を知れる
- ・ 他の国のこと、状況をしることが出来る
- ・ ジェスチャーの違い等を学んだ
- ・ 様々な国の人話した
- ・ 様々な国の文化を比較できた
- ・ 様々な国の行事を知れた
- ・ よく理解できるようになりました
- ・ まだ効果を感じてない
- ・ 様々な国籍の人がいてとても役立った
- ・ 留学生の人とも抵抗なく話せるようになったと思います
- ・ 日本の再発見、伝統への懐古、留学志望増大
- ・ 宗教的に禁止されていること、他の国の事情をしることができた
- ・ よくチューターの留学生や参加者の留学生と「自分の国では～だ」という話になるので各国の日本とは違う事情を知れて、知識を増やす点においても役に立っています
- ・ Topic に関して様々な意見や視点を聞くことができる
- ・ 食べ物、旅行、スポーツなど日本との違いが分かる
- ・ 他の国の文化だけではなく日本独自の文化も学べる
- ・ いろいろな考え方を知ることができ、日本以外の国の価値観、考えをしることができました

10. 英語チャットに参加して困ったことは？

<英語力>

- ・ わからない単語とか聞きづらい、他の人はわかるのかな？と思うと特に
- ・ 話している内容がわからなかったとき
- ・ 言いたいことが相手に伝わらないことがあった

- ・ 自分のボキャブラリーが少なくて表現に困った
- ・ 話すこと、聞きとること
- ・ 英語が瞬時にでてこなくて、先に会話が進んでしまう。
- ・ 何を話していいか分からなかった（自分の英語力不足で留学生に質問ばかりさせてしまった）

<話題不足・沈黙>

- ・ 話題がないとき
- ・ 沈黙が何度も訪れる時

<その他>

- ・ 留学生同士の会話のレベルが高く、内容を理解しにくいことがありました
- ・ チューターがしゃべりすぎてしまうことがあった。聞くことと話すことのバランスがとれると良いと思う
- ・ 特にありません（18件）
- ・ 特にないです。いつも楽しいです（困ることと言えば自分のボキャブラリーのなさだけです）

11. 英語チャットを有意義なものにするアイデアは？

<時間・場所>

- ・ チャットを 12 時 45 分までにする
- ・ 昼休みに行くのが難しいことが多いのでよく夕方のチャットに行っているのですが、月・木・金だけでなく火・水も夕方のチャットがあったら嬉しいです
- ・ 夕方にも英語チャットを開催して欲しいと思います

<広報>

- ・ もっと大々的に宣伝すべきだと思います（方法は特に思いついていませんが）

<話題提供>

- ・ トークテーマとかあってもいいかなと思った
- ・ 何か話す題目みたいなのをいくつか置いてあると話に詰まった時にみられる気がしました

<チューター>

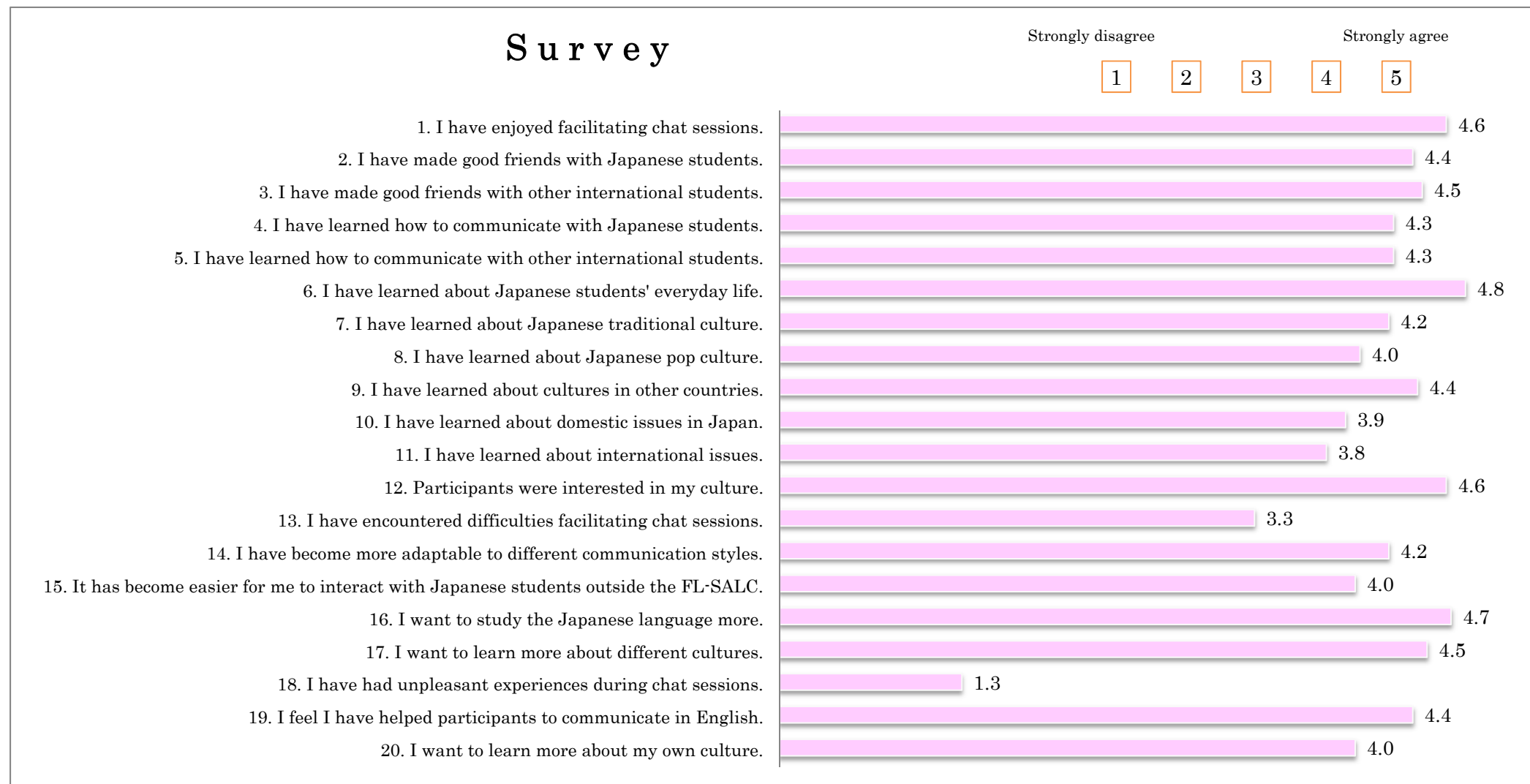
- ・ チューターの人が一人一人の英語能力に応じて対応してくれると良いと思う
- ・ チューター達が参加者が会話の内容を理解しているかどうか？確認してくれると助かります

<その他>

- ・ 映画をみたりしたい
- ・ 人が多すぎるときもあったので、Intermediate のクラスを増やしてもいいかもれません・・・でも難しいかもしれません
- ・ 現状維持で良いと思います
- ・ このまま継続してほしい
- ・ なし（7件）

III. 英語チューター（英語チャット担当の留学生）へのアンケート調査結果

(2016年1月実施、15名全員回答、自由記述は原文のまま)



質問（自由記述）：

- (a) What were your reasons for applying for the English Language Tutor position?
- (b) How has the experience as an English Language Tutor helped you?
- (c) What was it that you did not enjoy as an English Language Tutor?
- (d) For the betterment of chat sessions, do you have any suggestions?

チューター15名

英語チューター1

- (a) I wanted to meet new people and put my English skills to good use by helping other people learn the language.
- (b) I learned a lot of new things about Japan and everyday life of a Japanese student in Niigata. I also had the opportunity to meet people with different characters and backgrounds, this helped me in learning to communicate with different people.
- (c) I sometimes had difficulty with talking to beginner level students. They were sometimes really shy or they had difficulty communicating in English.
- (d) I think group sessions should be held with 2 tutors to help facilitate conversation.

英語チューター2

- (a) like communicating with different people from different countries. Especially I was majoring in Japanese and I'm interested in things related to both Japan and Japanese. So I really think it's a great chance for me to know more about Japan as an English tutor.
- (b) With students came to English chat, we talked about things like daily life, culture, social issues and a lot. I've got so much vivid information from students about all these aspects. Also sometimes we had to use some Japanese words to make conversation go on smooth. So for me that's a better way to know some interesting Japanese words than learning that from books.
- (c) Talking with different people itself is the most interesting thing for me.
- (d) My suggestion would be the preparation of topics in different levels. Conversation can go very well sometimes, but also you might talk to students who are shy or not that talkative. Some easy and interesting topics can help them join the conversation more quickly.

英語チューター3

- (a) I wanted to meet more Japanese people and other international students. I also wanted to help teach English as well.
- (b) This experience has taught me how to communicate with different types of people. It has also made me think about English grammar. Now, I vaguely understand how English is taught in Japan, so I can explain grammar in better terms than 'it is just that way'.
- (c) Sometimes, it was unfortunate that the appointment sessions are so short. We would often get cut short in the middle of conversation so it was a little regretful. However, usually the same person would book the same time slot, so it would be fine in the end.

- (d) I cannot think of any suggestions for the chat sessions. I think the chat sessions are fine as they are.

英語チューター4

- (a) -To improve my social and communication skills.
-To learn more about culture diversity among the participants.
- (b) My communications skill is getting better and I've expanding my social networks.
- (c) I want them to participate more while engaging in topics and interact with other students.
- (d) n/a

英語チューター5

- (a) Good experience to meet new people and make friends. Also a chance to learn about new cultures and everyday life.
- (b) I have become aware of different abilities in language and am able to adapt to them now.
- (c) I found that sometimes students due to shyness would not always engage in conversation so it often became a question and answer session of me continually asking them questions in order to provoke conversation rather than conversation flowing.
- (d) The list of topics was helpful.

英語チューター6

- (a) To meet more people
- (b) To meet new people and talk more openly
- (c) That sometimes that there are too many students
- (d) I think it's already okay.

英語チューター7

- (a) To learn about different cultures and to improve my own communication skills.
- (b) It helped me become more comfortable to interact with people of all different cultures.
- (c) n/a
- (d) Maybe create a facebook group or something else and then sometimes announce a certain topic for a chat session beforehand.

英語チューター8

- (a) It is currently difficult to get a job in Canada without any job experience or social skills and I lacked both. For that reason, the position was very valuable to me.
- (b) I feel like I have been able to get over some of my social anxiety and also have something positive to put on a resume in the future. I was able to meet many people and see many different perspectives on everyday issues and life.
- (c) When participants were too quiet, it made the situation somewhat awkward among the others. Even when I would hold up the conversation to ask the opinions of the quiet people, they would

sometimes respond that they have no opinion on the matter. I would then attempt to change topic to suit everyone but they would not talk much regardless.

- (d) Perhaps the English ability of the different levels should be clarified. I have had some students who could speak with me on an Intermediate/Advanced level at the Beginner table. I have only had a Beginner come to the Advanced table once, though. Perhaps the participants are under-estimating themselves.

英語チューター9

- (a) I wanted to help other students practice their conversational English. I was also looking for more opportunities to talk to Japanese students and to students from other countries about their cultures, as well as to hear their perspectives about Canadian and other cultures.
- (b) It helped me broaden my understanding of the world from the perspectives of people outside of my country of origin.
- (c) I honestly did not like the idea of tutoring a group with mixed English proficiencies because I felt it made it difficult to maintain conversations where everyone in the group could be included at the same time, but I thought it was alright as long as the groups were reasonably small.
- (d) No, I honestly liked how flexible everything was.

英語チューター10

- (a) I thought that this kind of work would be nice to help improve my English speaking abilities but also to get in touch with other students who are also interested in other countries.
- (b) It has helped me to navigate a conversation in a group of people.
- (c) There wasn't anything I did not enjoy.
- (d) As of now I do not have any suggestions.

英語チューター11

- (a) As I have had previously worked as a chat host I figured applying as a chat host would be a nice way to engage in the life at Niigata University.
- (b) I learned a lot about differences in cultures and improved my conversation skills. I also got to know a lot of people.
- (c) I do not recall anything I did not enjoy.
- (d) Nothing I could think of at the moment.

英語チューター12

- (a) English Chat seemed like an excellent opportunity to meet not only Japanese students, but students from all over the world.
- (b) Being an English tutor has actually been one of the factors in deciding to come back to Japan to teach as an English teacher sometime in the future, possibly immediately after I graduate from my undergraduate degree. It has helped me become more confident in communicating with people despite any language barriers too.

- (c) There were no aspects that I didn't enjoy. The program is run incredibly well and it can not be faulted!
- (d) While I have no real suggestions given it is already run incredibly well, I would like make a comment thanking Ms. Ebe Sanae, the FL-SALC Assistant who was always friendly and helped English Tutors if we needed to! Thank you Ms.Sanae

英語チューター13

- (a) Mainly to meet new students from different countries and cultures and improve my knowledge of Japan.
- (b) I have greatly expanded my knowledge of Japanese culture and people. Which has helped me to greater understand the country and I am currently calling home.
- (c) Sometimes students may be too shy to join in a conversation and so as a group discussion everyone suffered from a dull discussion.
- (d) Possibly encourage greater confidence in students and so everyone can enjoy fun discussion as a group.

英語チューター14

- (a) To share my knowledge, experience of learning English and to help the students getting improvement of speaking and listening skills.
- (b) The experience helped me understanding more about my country and Japan. Moreover, it helps me to find the way to communicate with people who have difficulties to speak out english.
- (c) If the students are very shy to speak.
- (d) Nil

英語チューター15

- (a) I prepared myself for the semester abroad in Niigata by taking part in an English Refresher course. This course was twice a week for 90 min for one year. In this course we practiced the English Grammar and vocabularies and a couple of time listening and speaking comprehension. To become an English Tutor was a good change for me to consolidate my English language skills. Thank you very much for this great possibility.
- (b) I met a lot of international and Japanese students. With some of them I am still in contact. We became friends and spent out free time together. This is/was a great help for me to enjoy Niigata so much.
- (c) Actually I really enjoyed every chat especially when all students joined the discussions. But from time to time the offered topics did not strike a chord and so I and the students got tried.
- (d) A list of general interested topics. Like:
 - Idioms and sayings (in comparison - Japanese to ...)
 - Japanese education system
 - Applying for a job – job-hunting in Japan
 - How to get a part time job and where in Niigata

- Good places for having a drinking party
- And so on

I got the feeling that almost every student was interested in this topics and not so much in personal topics like *What did you do last weekend?* and so on.

教育・学生支援機構グローバル教育センター ハドリー浩美
学務部教務課 (FL-SALC アシスタント) 江部早苗

FL Salc ドイツ語チャット (FL Salc Deutsch Chat)

2015年度第2期活動報告

1. 開催回数と参加者数:

月曜日	チューター3名担当: Alexandra Tesch (マクデブルク大学) Franziska Hasselbach (ミュンスター大学) Christoph Kulle (ミュンスター大学)	9回	参加人数: 54名
水曜日	チューター3名担当: Nina Bleickert (ボーフム大学) Lara Leidgeb (ミュンスター大学) Welf Knors (マクデブルク大学)	9回	参加人数: 53名
合計	6名	18回	参加人数: 107名

曜日別参加者数:

月曜日

開催日	11/9	11/16	11/20	11/30	12/7	12/14	12/21	1/14	1/25	平均参加
参加者数	10名	8名	5名	6名	6名	8名	7名	2人	2人	6名

水曜日

開催日	11/11	11/18	11/25	12/2	12/9	12/16	1/13	1/20	1/27	平均参加
参加者数	9名	8名	4名	8名	7名	9名	2名	2名	4名	5.8名

2. ドイツ語チャットの活動

2015年度第2学期はドイツ語チャットを週2回行い、月曜日と水曜日で合計18回を開催した。全参加者数は、のべ107名に上った。平均では各回約6名の参加者で、第1学期よりも多かった。第1学期ではレベル分け(初級編、中級編)を行ったが、あまり機能しなかった印象であったため、第2学期ではあえてレベル分けを行わなかった。その代わりに、各セッションのチューター数を3名で実施した。参加者が多い場合には、3人がそれぞれのレベルに分かれて小グループを作るといった工夫をしてくれた。

第1学期と同様に、教員・成績・単位から「解放」されたコミュニケーション

ンの場として、日本人学生にとって外国語であるドイツ語をより使いやすい環境にするため、ドイツ語チャットの準備や運営は完全にチューターたちに任せました。担当教員は、必要に応じてアドバイスをを行い、教材・iPadの手配など、なるべくチューターたちへのサポートをするように努めた。チャットの後には内容、参加数、使用言語割合などについてチェックシートを第1学期と同様にチューターに書いてもらった(資料参考)。チャットの内容の詳細は3. 活動報告を参考にされたい。

ドイツ語チャットの宣伝については、ドイツ語の授業中や、総合教育研究棟A棟及びB棟のロビーにあるモニターなどを用いて宣伝を行った効果により、第1学期よりも参加者が増えたものと思われる。

3.1. 月曜日開催ドイツ語チャット活動内容:

各回で取り上げたテーマと使用言語の割合は以下の通り。

第1回(11月9日): 自己紹介、ドイツと日本の食文化。参加者は10名と多かったため、小分けのグループを作り、各チューターは各小グループを回りながら実施し、全員がお互いに知り合えることとなった。参加者のモチベーションが高く、大変いい交流ができた。

(使用言語割合: ドイツ語90%、日本語5%、その他5%)

第2回(11月16日): 家族、両親、兄弟姉妹、ペットと庭について、最後はゲームを行った(**Mein rechter, rechter Platz ist leer**)。

(使用言語割合: ドイツ語95%、日本語5%)

第3回(11月20日):メルヘンとグリム童話:「ホレおばあさん」をドイツ語で読み、簡単にドイツ語でまとめてもらい、一番好きなグリム童話について話したり、日本の昔話との比較を行った。

(使用言語割合: ドイツ語90%、日本語5%、その他5%)

第4回(11月30日): 自己紹介、日本とドイツの祝日、大変興味深かったテーマだったようで、会話は絶えなかった。

(使用言語割合: ドイツ語90%、日本語8%、その他2%)

第5回(12月7日): 和食、ドイツ料理、家庭料理&自炊、レシピ、国際的な料理。

(使用言語割合: ドイツ語95%、日本語5%)

第6回(12月14日): 週末をどう過ごしたか?暇なときにどう過ごすのか。

(使用言語割合: ドイツ語95%、日本語5%)

第7回(12月21日): 将来について、どんな職業・就職を希望するか、子どものときに何になりたかったか、年末年始の休暇の予定。

(使用言語割合: ドイツ語80%、日本語10%、その他10%)

第8回(1月14日): プレゼンの練習(ドイツでの旅企画)

(使用言語割合: ドイツ語80%、日本語20%)

第9回(1月25日): スキーなどの冬スポーツ、ドイツや日本のポップミュージック、病気、お見舞い

(使用言語割合: ドイツ語80%、日本語20%)

3.2 水曜日開催のドイツ語チャット活動内容：

各回で取り上げたテーマと使用言語の割合は以下の通り。

第1回（11月11日）：自己紹介、趣味、日常、外国滞在経験有無（ドイツ）、ドイツ語チャットへの期待。

（使用言語割合：ドイツ語80%、日本語20%）

第2回（11月18日）：日常、食事、教育制度、酒の飲み方、動物、福島第一原発事故。

（使用言語割合：ドイツ語75%、日本語25%）

第3回（11月25日）：ドイツのテレビ番組、ドイツ・日本での大晦日とその伝統の比較、日本のポップミュージック。

（使用言語割合：ドイツ語80%、日本語10%、その他5%）

第4回（12月2日）：日本とドイツでの方言、ニコラウスパーティの企画（12月6日）、アニメ&映画。

（使用言語割合：ドイツ語80%、日本語15%、その他5%）

第5回（12月9日）：新しい参加者に基礎文法を説明、子どもの歌、人気のコマーシャル、ライブ、食事、冬の休暇。

（使用言語割合：-）

第6回（12月16日）：旅と旅の企画、助動詞（*möchten*, *müssen*）、ドイツ語の筆記体。

（使用言語割合：ドイツ語75%、日本語25%）

第7回（1月13日）：ドイツでの記念碑についてのプレゼン練習、ドイツの歴史。

（使用言語割合：ドイツ語80%、日本語20%）

第8回（1月20日）：旅行、天気、ゲーム：私はだ～れ？

（使用言語割合：ドイツ語：90%、日本語10%）

第9回（1月27日）：ドイツ・日本での暇の過ごし方、休み、プレゼンの準備。

（使用言語割合：ドイツ語 80%、日本語20%）

4. 教員コメント

2015年第2期のドイツ語チャットへの参加者の詳細をみると、まずレベルによって参加を決めるのではなく、自分の都合に合うときにチャットに参加するという学生が多かった印象がある。そのために、レベル分けをしなかったことが成功であったと言える。リピーターは今回も多く見られ（参加者全員19名）、月曜日・水曜日両日に参加した学生も10名ほどいた。両日18回の中に10回以上の参加者した学生は4名、8回～5回参加した学生は5名であり、5回未満の学生は10名いた。参加者のうち、7名は1ヶ月～1年間のドイツ語文化圏への留学経験がある学生であり、そのうち半年以上のドイツ語圏留学滞在経験のある学生は4人がいた。また、翌年（2016年度現在）実際にドイツ語文化圏に1ヶ月～半年の留学をした学生は7名にも上っている。このこ

とは、留学を終えた学生にとっても、これから留学を予定している学生にとっても、また留学したくてもできない学生にとっても、ドイツ語チャットは大変よく機能していたことを意味すると思う。

運営に関して、1月中の参加者が少し減ったが、それは期末テストなどが理由として考えられる。チューターは3人でちょっと多かったと感ずるかもしれないが、参加者が多かった回は、丁度良かったと思われる。

参加者にせよ、内容にせよ、留学にせよ、第2期のドイツ語チャットは、今回も大成功であり、新潟大学の特色ある初修外国語教育において、大切に継続すべき試みであるとの思いを強くした。

以上

資料:

ドイツ語チャットのチェックシート:

(チャットの開催直前に担当チューターに渡し、なるべく詳しく記入させ、チャット終了後に提出してもらうようにした。)¹

FL-SALC グループ学習室: ドイツ語チャット 2015 年第2期
月曜日、16時25-17時55、11月
Mo., 16.25-17.55, November 2015
(4 Mal) (4回開催)

Deutsch mit Alexandra, Franziska und Christoph

9. Nov. 2015 (Mo.) (日付、曜日)

TeilnehmerInnen(参加者): ___Studierende (ohne Tutoren) (学生参加数(チューターを除く))

Inhalt & Kommentar: (内容とコメント)

Wie viel Prozent der 90 Minuten wurden Deutsch gesprochen?

ドイツ語は90分間で何%を使用したか?

Deutsch: _____(%) Japanisch: _____(%) Andere: _____(%)
ドイツ語 日本語 その他

¹ 実物はヘッダー以外にはドイツ語のみで A4 サイズのもので、日本語訳は今回の報告に当たり付け加えた。

○概要

これまでフランス語チャットは、毎週 1 回ずつ水曜 5 限に開催してきた。しかし、参加者アンケートやフランス語副専攻説明会などで、「5 限は毎日必修科目と重なるためチャットに参加できない」という意見が寄せられたため、今学期は水曜 5 限に加えて、火曜 4 限にも開催日を拡大した。

活動日は週 1 回から 2 回へと倍増したが、1 回の活動時間は 90 分から 60 分へと短縮した。変更意図は、特に入門レベルの参加者を相手にするアシスタント学生にとって 90 分長すぎるため、さらに参加する学生に対しても短い時間に気軽に参加してほしいという期待を込めたものである。予算の抑制という意図もあるがそれは付け足しである。

活動内容は、今学期から、事前にプログラムを作成して FL-SALC カウンターなどで配布し、一般に公開して参加者が予定を立てやすいよう配慮した。

プログラムの内容は、あるテーマのもとにアシスタントと参加者でロールプレイングをフランス語で試みるものを準備した。11 月・12 月は日常的な会話を練習できる状況として「自己紹介」「図書館で本の検索」「休暇の計画」「子供の頃の話」などを選定した。1 月は、春休みのナント大学短期研修の参加者を対象の中心に据えて、ホームステイシミュレーションを 3 回実施した。内容は「家へ行って、家族に会い、家の中の説明を受ける」「ホームステイファミリーに助けを求める」「ホームステイファミリーの誤解を解く」とした。

週 2 回の開催であるが、テーマは同じ週なら 2 回とも共通とした。仮に週に 2 回とも参加する熱心な学生が出て、同じテーマであったとしても、ロールプレイングの即興性から、2 回が全く同じ内容になることはまずありえないものと見込んだ。

最後にプログラムを掲載する。

○実施状況と参加人数

フランス語 11 月		
実施日	曜日	参加人数
11 月 10 日	火曜	11
11 月 17 日	火曜	7
11 月 24 日	火曜	1
計		19
11 月 11 日	水曜	6
11 月 18 日	水曜	3
11 月 25 日	水曜	3
計		12

フランス語 12 月		
実施日	曜日	参加人数
12 月 1 日	火曜	7
12 月 8 日	火曜	8
12 月 15 日	火曜	3
計		18
12 月 2 日	水曜	7
12 月 9 日	水曜	4
12 月 16 日	水曜	5
計		16

フランス語 1 月		
実施日	曜日	参加人数
1 月 12 日	火曜	6
1 月 19 日	火曜	6
1 月 26 日	火曜	4
計		16
1 月 13 日	水曜	7
1 月 20 日	水曜	5
1 月 27 日	水曜	6
計		18

合計	99
----	----

○プログラム

1	10 nov.	11 nov.	Présentation personnelle	初対面の人たちに自己紹介します
2	17 nov.	18 nov.	Chercher des livres	図書館で本を探します
3	24 nov.	25 nov.	Choisir un cadeau	プレゼントを選びます
4	01 déc.	02 déc.	Parler du projet pour les vacances	休暇中の旅行の計画について友達と話します
5	08 déc.	09 déc.	Raconter son enfance	子供の頃の話をしてもらいます
6	15 déc.	16 déc.	Session de jeu – Dixit	Dixit というボードゲームをやりま す
7	12 jan.	13 jan.	ホームステイシユミ レーション(1)	家へ行って、家族に会い、家の中 の説明を受ける
8	19 jan.	20 jan.	ホームステイシユミ レーション(2)	ホームステイファミリーに助けを 求める
9	26 jan.	27 jan.	ホームステイシユミ レーション(3)	ホームステイファミリーの誤解を 解く

平成27年度 第2学期 初修外国語チャット(ロシア語)

○活動内容について

平成27年度第2学期のロシア語チャットは毎週1回、金曜日の昼休み(11:50-12:50)総合教育研究棟A300にて11月から翌年1月までの3ヶ月間、計9回開催した。人文学部の交流協定校である北東連邦大学からの留学生2名がチューターとなり、人文学部生を中心に毎回行われた。1年生から4年生まで全員一緒にチャットを行った。

留学生のアンナ・スタロスチナとレーナ・イグナチエワは毎回テーマを決め、そのテーマに沿った基本文型を説明し、その応用を次々と展開するというやり方で、日本人学生たちが理解できるまで何度も繰り返した。時にはゲーム形式で行っていたので、楽しく参加しやすい会だった。留学生2名はロシア語とサハ語のバイリンガルであり、ロシア文化とサハ文化に関して画像や映像を提示しながら説明をしたが、これは日本人学生にはたいへん興味深いものであった。その結果、2年生2名が北東連邦大学への留学を希望するようになった。

上記2名の学生の他にも3名の学生がサクト・ペテルブルク大学とヴィリニウス大学への留学を希望するようになった。チャットが学生たちの留学のきっかけになっていることは確かなことである。

(鈴木正美)

○実施状況と参加人数

ロシア語 11月		
月日	曜日	参加人数
11月11日	水曜	6
11月18日	水曜	4
11月25日	水曜	5
計		15

ロシア語 12月		
月日	曜日	参加人数
12月2日	金曜	5
12月9日	金曜	3
12月16日	金曜	5
計		13

ロシア語 11月		
月日	曜日	参加人数
1月8日	金曜	5
1月22日	金曜	2
1月29日	金曜	2
計		9

合計	37
----	----

平成27年度 第2学期 初修外国語チャット(朝鮮語)

○実施状況と参加人数および活動内容

朝鮮語チャット 12月			
月日	曜日	参加人数	活動内容
12月2日	水曜	6	韓国語の助詞・用言の不規則変化の学習, 韓国語単語でしりとりゲーム(끝말잇기), K-POP 視聴 (PSY 「DADDY」)
12月10日	木曜	21	떡꼬치(甘辛もち串)と불고기(焼肉)づくり
12月16日	木曜	7	韓国語で故事成語のストーリーを読解, 留学生と会話(冬休みの予定)
計		34	34

朝鮮語チャット 1月			
月日	曜日	参加人数	活動内容
1月14日	木曜	6	日本のトランプゲーム「大富豪」を留学生に教えながら一緒に遊ぶ
1月20日	水曜	6	オーストラリア・中国の留学生が新規参加。韓国語で出身地など自己紹介, 韓国語の助詞の学習
1月28日	木曜	13	帰国留学生送別会
計		25	
合計		59	

教員コメント

朝鮮語チャットは、上記の6回以外にも、留学生と日本人学生が自発的に集まり、10月15日(木)、18日(日)、29日(木)、11月4日(水)、12日(木)、18日(水)、26日(木)、12月21日(月)、1月22日(金)にも実施された。10月17日(土)に留学生と共同で新大祭に参加(チヂミ・とうもろこし茶の販売)したことから、「集まること自体が楽しい」と思える友情が芽生えていたようであり、喜ばしいことであった。

特に、後期は、毎年2月中旬に「話してみよう!韓国語」新潟大会が開催されることから、スピーチコンテストの台本になる韓国語作文を添削してもらったり、留学生との会話練習にも熱が入っていた。また、韓国のテレビ番組や、受験戦争を戦い抜く高校生の猛勉強ぶりの紹介(早朝・夕・夜の自習時間、一日に弁当3つ)、韓国の大学入学試験問題(第二外国語科目の「日本語」)を実際に解いてみるなど、実際に韓国人留学生と会うことでしか得られない情報にも接していた。

特筆すべきは、世界的な「韓流」ブームのお蔭で、韓国語を通じて、韓国のみならず中国やその他の国からの学生同士の交流が自然に実現している点である。現実の東アジア情勢がどうであれ、文化を通じての人と人との交流に国境はないことを目の当たりにした。

(藤石貴代)

平成27年度 第2学期 初修外国語チャット(中国語)

○実施状況と参加人数

●参加学生による報告：

中国語と英語のチャットに参加して

今学期、私は英語と中国語のチャットに参加しました。英語チャットでは、留学生と一対一で会話するチャットや、グループチャットに参加しました。もともと、英語を話す時に、黙ってしまうことがよくあり、話の始まりを見つけられなかったり、あいづちがうまく打てなかったことがありました。中国語チャットに出て、間合いの取り方、あいづち、話し始め方について、中国語会話から学び、それを英会話に活かしていきました。今は、英語よりも中国語の方が使いやすく、英語で会話していると中国語が出そうになることがあります。

中国語チャットでは参加する学生数がまだまだ少ないので、英語のように活発になって欲しいと思いました。英語では、チャット以外でも会話のための瞬間英作文とか、会話表現の講座があり、それを実践ですぐに活かせるのは有益でした。中国語にも会話講座があるとより良いと思いました。英語チャットの参加者には1年生から大学院までいて、さらに韓国や中国の留学生もおり、それだけで話題に困らない感じがありました。また、開催回数も多く、固定メンバーもいますが毎回新しいメンバーもいました。一方で、中国語の参加者は、ある程度会話が出来てからという感じで、3、4年生以上が多かったようです。中国語チャットではメンバーが固定されがちで、2、3回行くと、ある程度相手の様子が分かるので、段々と話題に困ることもありました。

中国語は大学から学び始め、一年間の留学まで経験しました。北京留学中に、中国の学生を見ると英語を話せる人が多く、また、英語圏以外からの留学生が、母語＋英語＋中国語＋その他、日本語やスペイン語などを話しているのを目にして、英語プラスもう一言語が必要であることを感じました。中国語をある程度話せるようになったことで、自分の思っていることや伝えたいことを表現できるという自信が付き、英語を話すことに対するコンプレックスが無くなりました。そして、中国語を勉強したことで、別の言語も勉強したいという欲もわいてきました。

私は中国語を学習する中で、限られた表現でも伝えようとすれば、そのつたない言葉で

中国語チャット		
月日	曜日	参加人数
12月3日	木曜	4
12月10日	木曜	4
12月17日	木曜	4
計		12
12月4日	金曜	7
12月11日	金曜	5
12月18日	金曜	4
計		16
1月7日	木曜	5
1月21日	木曜	4
1月28日	木曜	4
計		13
1月8日	金曜	5
1月22日	金曜	2
1月29日	金曜	5
計		12

合計	53
----	----

も相手は理解しようと努めてくれていることを知りました。中国語を習得することで、それまでに感じていた英語を使うことのコンプレックスを克服しました。いわば、開き直り
というか、出来ないからこそ勉強しているのだというスタンスになれた点が大きいように
思います。

今学期、英語と中国語の両方のチャットに参加したことで、相乗効果が得られたと感じ
ています。

(人文学部4年女子)